

ライフサポートねりま 介護福祉士 原口 葉子

功 績 老健介護職の枠を超えて、超強化型の要件獲得に必要な家屋調査や、ケアマネの引継ぎ期間における利用者のご家族との関係構築を積極的に行い、当老健の運営に大きく貢献した功績。

推 薦 者 事務長 野口 伸一

推 薦 理 由 原口葉子さんは、プロの介護職員としてのホスピタリティ精神に加え、元来の人懐っこさと笑顔で患者さんやご家族と良好な関係を築くことが出来る職員でした。右手首の怪我が慢性化し、移乗等の介護業務が困難になっても、自分で出来ることを精いっぱい見つけ組織に貢献しようとする姿勢は、まだまだ発展途上でかつ職種領域を超えて助け合いが必要な当施設にとって模範となるものです。原口さんの仕事に取り組む姿勢と超強化型算定への貢献、ケアマネ業務の引継ぎのサポートで業務を停滞させなかった実績を評価していただきたく理事長賞に推薦します。

内 容

原口葉子さんは、大学病院、回復期病院で病棟介護職としての経験を積みながら、2年前に介護福祉士を取得し、当施設が開設してまもなく回復期病棟に看護助手として入職しました。

ところが、もともと痛めていた右手首の三角靭帯の怪我が悪化し、患者さんの移乗やお風呂介助などが出来なくなってしまいました。そこで、回復期病棟から老健に異動して、食事介助など右手首の負担が少ない介護業務を主業務に、その他の時間で患者家族対応などを行ってもらっていました。そんな折、当施設が超強化型の算定基準を満たすために最後のハードルとなっていた退所前後の家屋調査を行う人員が不足しており、これを原口さんに依頼したところ快く引き受けていただきました。家屋調査は初めての業務でしたが、経験のある職員から熱心に学び、対象のご家族へのアポイントからすべての業務をすぐに行えるようになりました。この家屋調査の件数が伸びたことで当施設は計画を3ヵ月前倒しして7月より超強化型を算定できることになり、月100万円の収益増が実現できました。

同時期にケアマネージャー 1名が退職になり、次に入職するケアマネージャーに直接の引継ぎが出来ないことになりましたが、その際も次のケアマネージャーに引き渡せるよう入居者やご家族との面談を丁寧に行い、状況の把握に努めました。現在、新しいケアマネージャーが入職し、順次引継ぎを行っております。

このように、介護職員の本来業務の一部が出来なくなった状態でも、職種の枠を超えて当施設の運営に大いに貢献していただいています。